

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月13日実施)	総合評価 (月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①幅広い学習ニーズに対応する多様で柔軟な教育課程を展開する。 ②「確かな学力」向上のため組織的な授業改善を推進し、生徒が主体的に考える力を育てる。	②「確かな学力」向上のために教育課程の編成及び授業改善を行い、生徒の学習意欲の向上を図る。	②教員相互の授業見学や研究授業、研究協議を活性化させ組織的な授業改善に取り組む。	②生徒による授業評価や生徒学力調査の結果。	11月に教員相互の授業見学週間を設定するとともに、荏田南中学への授業参観を行った。また、外部講師による授業改善のための研修会を実施した。	授業互見を増やすため実施時期、期間などを検討していく。 研修会では、新学習指導要領において主題となっている「主体的・対話的で深い学びの実現」を踏まえ、現場に根ざした授業改善に取り組むこと、及び高大接続改革の背景とポイントを押さえ、授業改善の必要性を認識するために、「新しい時代に向けた「高大接続改革」高校はどう取り組んでいくか」と題して講演していただき、大学の入試改革やそれに伴う次期学習指導要領の狙いについて詳しい話を聞き、教員による「教授」から生徒自身による「学習」へのパラダイム転換を図って行く必要性を共有した。 生徒による授業評価や生徒学力調査のアンケート結果からはおおむね満足を得られた。			
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	①「健やかな体」と「豊かな心」を育成し、心ふれあう教育を推進する。 ②部活動や生徒会行事を通して生徒が自主的・自立的に活動する姿勢を育成する。	②部活動及び生徒会行事の活性化を図る。	②部活動等振興費の適正な運用の確立と、全校的な支援体制の整備。 ②新入生歓迎会やHPによる宣伝広報活動を強化し、部活加入率を高める。 ②企画の検討時間の確保と企画決定方法の整備。	②支出の見極めと趣旨の周知の状況。 ②HPの部活実績の更新回数。 部活動加入率の5月80%の達成と11月78%の維持。 ②準備期間や企画決定について、生徒職員のアンケート60%以上の支持。	部活動等振興費は適正に運用されている。部活備品の購入を検討中。 HPの部活実績は年2回更新した。 部活加入率は5月期78.3%、11月期74.4%で目標達成できなかった。 行事等の運営はアンケート結果からおおむね満足を得られた。	来年度以降、年度末残金が生じた場合の運用法、徴収金変更の検討。 HPの更新回数の増加と部活紹介ページの充実が急務。 体育祭実行委員会の活用、青群祭の企画決定方法と落選団体対応の整備、食品団体の衛生指導の徹底などが課題。			

3	進路指導・支援	生徒一人ひとりのキャリア形成を助長する進路支援の充実を図る。	個々の発達を踏まえた「キャリア教育実践プログラム」の充実を図る。	本校の「キャリア教育実践プログラム」についてさらなる検証を実施するとともに、体育コース解消となる平成29年度以降を見据えた「キャリア教育実践プログラム」を作成する。	本校の実状を踏まえた「キャリア教育実践プログラム」を作成できたか。	生徒一人ひとりのキャリア発達を促すという観点でのプログラム作成はおおむね達成できた。	個々の行事ととの関連付けの点では、更なる検証が必要である。高大接続改革に伴う具体的な現場の対応が求められている時期であることを考慮し、より良いプログラム作成を目指したい。			
4	地域等との協働	地域社会との協働および交流を通して、地域とのつながり・絆を強化し、地域とともにある学校づくりを推進する。	近隣小中学校や自治会等と連携した地域貢献活動を行い、仲間と協力して自己の能力を社会のために役立てる意義を考えさせる。	自治会行事や介護施設でのボランティアの参加を引き続き推進する。また部活動生徒による出前技術指導を実施し、近隣の小学生を招いての書道交流も昨年度同様に年に1回実施する。	自治会行事や介護施設でのボランティアの参加回数や種類が増えたか。また部活動出前技術指導や書道交流の実施回数。	自治会行事や介護施設でのボランティアの参加回数が昨年比で2回、参加種類が2種類増えた。また、部活動出前技術指導の回数は13回実施した。書道交流は昨年と同様1回実施した。	ボランティア活動への参加率が増えた。ボランティア活動のあり方について、計画的に企画・実施・検証し、引き続き参加を推進したい。			
5	学校管理 学校運営	①信頼に根ざした学校づくりを推進する。 ②不祥事・事故防止の徹底を図る。	②私費・県費とも適切な執行を図り、誤りのない書類の作成を徹底する。	②複数の担当者により適切な執行が行われているかを確認し合う。また書式を統一することにより、記載ミス無くす。	②複数で確認し、適切な会計処理がなされているか。出納簿・報告書にも誤りが無いか。	中間会計監査等において、各担当者だけでなくグループでの確認や、管理職への報告・相談をし書類の作成をした。	仕事の集中する時期でもあるので、ゆとりを持って書類の確認をしてもらうように早めの準備をしてもらうようにアナウンスしていく。			